

〔研究報告〕

赤十字を基盤とした学士課程における保健師基礎教育が 実践に与える成果の一考察

萩原智代, 佐々木久美子, 渡邊正樹

A study of the outcomes of the Red Cross-based basic public health nurse education in an undergraduate program

Chiyo HAGIWARA, Kumiko SASAKI, Masaki WATANABE

要旨：目的：赤十字の理念を基盤とした学士課程における保健師基礎教育を受けた卒業生が教育の成果をどう保健活動に活かしているかを明らかにする。

方法：研究参加に同意を得た卒業生6名に対しフォーカス・グループ・インタビュー法を行い得たデータについて質的記述的分析を行った。

結果：【看護基礎教育により培われた能力・思考】は<対象に寄り添い信頼関係を築く力>、【赤十字教育により培われた能力・思考】は<敵味方なく寄り添う公平・中立の精神>、【保健師基礎教育により培われた能力・思考】は<他校より充実した地区診断演習による地域特性理解力>、【卒後に身に付いた能力・専門的思考】は、<保健師としての立ち位置を意識しつつ多職種との連携力は働きながら向上させる>が挙げられた。

結論：赤十字教育では行政保健師が公務員としての職責を果たす上で重要な基盤が培われていた。一方で、多職種連携、住民との協働をする能力の育成については今後検討が必要である。

キーワード

保健師基礎教育、赤十字、実践、学士課程

Abstract : This study aimed to determine how graduates the undergraduate public health nurse education program based on the Red Cross philosophy utilize their education in their nursing practice.

Methods: A qualitative descriptive analysis was conducted on the responses obtained through focus group interviews with six graduates who consented to participate in the study.

Results: The most common response for the category 'abilities and thoughts cultivated through basic nursing education' was "the ability to build relationships of trust with patients." For the category 'abilities and thoughts cultivated through Red Cross Education', the most common response was the ability to develop "the spirit of fairness and neutrality to approach people whether friend or foe." For the category 'abilities and thoughts cultivated through basic public health nurse education,' a common response was "the ability to understand regional characteristics through district diagnosis exercises, which are more extensive than at other schools. Regarding 'abilities and professional thinking acquired after graduation' the following was mentioned "being conscious of my position as a public health nurse, I would like to develop the ability to collaborate with other professionals while working."

Conclusion: The Red Cross education provided an essential foundation for administrative public health nurses to fulfill their responsibilities as public servants. However, development of the ability to collaborate with other professionals and residents needs to be examined in the future.

Keywords :

basic public health nurse education, red cross, practice, bachelor's degree program

受理日：2023年10月4日 掲載決定日：2023年12月18日

日本赤十字秋田看護大学

Japanese Red Cross Akita College of Nursing

I. 緒言

第一次大戦後に国際連盟の常任理事国となったわが国にとって、公衆衛生における近代的な制度の整備と看護職の養成は、喫緊の課題であった。このような国家的な必要性を背景に、制度発足前の地域で活動する看護職教育を日本赤十字社はわが国で最初に行った(福本, 2008)。また、鶴若、渡部、川原他(2015)によると、「日赤は、国際連盟規約第25条より、赤十字社連盟第1回総会で公衆衛生の関心を喚起、衛生知識普及の決議がなされたという国際的見地により、日本人の手で社会看護婦の養成が開始された」とも報告されている。つまり、保健師の養成は1928年に日本初のいわゆる公衆衛生看護婦の専門的な育成を目指して、社会看護婦として養成が開始されたことは注目に値するものであると考える。また、この日本赤十字社による保健師の育成は、1928年から現在に至るまで、一時戦時救護のため中断したものの、赤十字の理念のもとに受け継がれてきており、いわば日本赤十字社による看護職養成は国家的な要請を側面から支えるものであったともいえる。

また、我が国では昨今東日本大震災や地球温暖化の影響により天候の異常によりもたらされる水害が頻発するなど、各地で災害に見舞われている。さらに新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延が2020年初頭から始まり、2023年8月現在においてもその感染は未だ続いている状況にある。このような健康危機にさらされている現状を踏まえ、2023年3月に地域保健対策の推進に関する基本的な指針が改正された。改正された内容として、健康危機管理体制の強化をはかる手立てとして保健所、市町村に統括保健師の配置が明記されたほか、健康危機管理発生時の都道府県、市町村保健師の応援体制の整備について新たに盛り込まれたことなど(厚生労働省, 2023)、従来にも増して保健師の役割はクローズアップされている。

一方で保健師教育の観点では、2020年に保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正された。改正の理由として、看護基礎教育検討会報告書(厚生労働省医政局看護課, 2019a)では「減災や健康危機の予防・防止が重要となっている中、疫学データ及び保健統計等を用いて地域をアセスメントし、それらの予防や防止に向けた支援を展開する能力の強化が求められている(中略)ケアシステムの構築や地域ニーズに即した社会資源の開発

等を推進するために、施策化能力の強化を目指す」ことが示され、教育内容の強化として複数科目の単位数増の方向性が明記された。

日本赤十字秋田看護大学における保健師基礎教育は、2009年に大学開学と同時に開始され、2023年現在に至るまで約680名の保健師資格取得者を輩出している。健康危機にさらされる昨今保健師の役割がクローズアップされる中、前述した保健師基礎教育で今後求められる能力を踏まえ、教育する必要がある。

そこで、赤十字の理念のもと保健師基礎教育を受けた卒業生がどのように教育の成果を実践に活かしているかを明らかにすることは、今後社会のニーズに即した保健活動を展開できる保健師教育のあり方を検討するうえで重要であると考えた。

II. 研究目的

本研究の目的は、赤十字を基盤とした学士課程における保健師基礎教育を受けた卒業生が教育の成果をどのように保健活動に活かしているのかを具体的に明らかにすることである。

III. 研究方法

1. 用語の定義

本研究で用いる「教育の成果」とは、「日本赤十字秋田看護大学で学んだ卒業生が保健師としての実践において、保健師基礎教育によって培われたと主観的にとらえた成果」と定義する。

2. 研究対象

日本赤十字秋田看護大学の卒業生(2013年～2020年度卒業)のうち、大学が保健師として勤務していると把握している26名の中で研究参加者として同意が得られた者とした。

3. 調査方法・調査期間

データ収集は、研究参加者に対しフォーカス・グループ・インタビュー法を用いて実施した。調査日は日本赤十字秋田看護大学で実施された「卒業生の交流会(卒後保健師として活躍している卒業生が対象)」と同日とした。研究協力依頼は、事前に「卒業生の交流会」の案内通知文書と研究協力に関する依頼文書を同封し郵送した。交流会終了後に研究協力できる者に残ってもらい、口頭および文書を用いて研究説明を行った後、同意が得られた者(以下;卒業生とする)に調査を開始

した。研究者と研究参加者のみで会話ができるようプライバシー保護に留意した講義室を確保した上でインタビューを実施した。インタビューの内容は、自らが保健師としての実践において、日本赤十字秋田看護大学の保健師基礎教育によって培われたと感じる教育の成果として、「保健師として活動する上で大学での学びが活かされていること」「保健師として活動する上で赤十字の理念を実感すること」「保健師として活動する上で専門職としてのやりがい」などについて非構造化インタビューの手法で研究参加者同士自由に語ってもらった。データは研究参加者に事前に許可を得た上でICレコーダーに録音したほか、メモとして記録した。調査は2022年1月に実施した。

4. 分析方法

インタビューで得られた録音データを逐語録に起こし、「保健師として活動する上で大学での学びが活かされていること」「保健師として活動する上で赤十字の理念を実感すること」「保健師として活動する上で専門職としてのやりがい」の三つの観点を念頭に置きながら、語られた言葉の文脈の意味を損なわないようデータを切片化した上で解釈を加えコードを抽出した。意味内容が類似しているコードをカテゴリ化し命名を行った。なお、卒業年度により教育を受けたカリキュラムに相違があることを考慮したうえで分析を進めた。分析においては、質的研究に精通する研究者をはじめ、インタビューを実施した者以外を含む複数の研究者同士で解釈を行い、分析の真実性、信用性の確保に努めた。

5. 倫理的配慮

本研究は日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学研究倫理審査委員会の承認(承認番号：2021107)を得た上で実施した。研究対象となる者に対しては、事前に調査の前に開催される「卒業生の交流会」の案内通知と同封する形で研究目的、研究方法、研究成果の公表、について記載した文書で案内をした。また、研究への協力については自由意思によるものであり、協力辞退することにより何ら不利益はないこと、個人情報保護およびデータの管理について同様に記載し、調査開始前に口頭および文書を用いて再度説明を行った。研究協力に対する同意書の署名により承諾を得た研究参加者に対して調査を実施した。

IV. 結果

1. 研究参加者の属性

研究参加者の総数は6名であり内訳は以下の通りであった。勤務先は、都道府県1名、市町村4名、産業1名、保健師としての経験年数は1年目2名、2年目1名、3年目1名、5年目2名であった。

2. 分析結果

フォーカス・グループ・インタビューの実施時間は約120分であった。録音したインタビューデータを逐語録に起こしたテキストを質的記述的手法で分析したところ、7カテゴリ、30サブカテゴリ、79コードが抽出された。結果について、「保健師の現場実践で活かされている赤十字を基盤とした学士課程での学び(表1)」「保健師基礎教育の成果と今後の教育への展望(表2)」「保健師という専門職としてのやりがい・姿勢(表3)」として再構成した。以下結果について、文中においては、カテゴリは【 】、サブカテゴリは< >とし、サブカテゴリを生成したコードに関連する主要な逐語録“斜字”(対応するコードID)を示しながら述べていく。

1) 保健師の現場実践で活かされている赤十字を基盤とした学士課程での学び(表1)

【看護基礎教育により培われた能力・思考】として、<対象に寄り添い信頼関係を築く力>や<多職種とのコミュニケーション力>を基盤とし<講義・演習・実習により培われた看護過程展開技術が地域活動に活かされる>ほか、<「生きるを支える人になる」ことの実感>を挙げていた。

“看護の人って寄り添うところから始める。繰り返すとか手法を用いながら、そういうところから信頼関係を作ってから一緒に(中略)知識を与えるではなくて傾聴”(3)

“(コミュニケーション力は)患者さんとお話するときも、他の職種とコミュニケーション取る時も重要な能力なのかな”(1)

“大学で勉強してきてよかったなと思うのは、すごく看護師の知識が役に立つ(中略)看護過程のアセスメントの過程、具合の悪い高齢者に緊急で行かなければならないとか(中略)医療的な知識を求められていて(中略)即時にアセスメントをする力は、頑張って看護過程のおかげで、自分で頭で整理して記録に起こしているのは、他の職種に繋げる、病院・施設に繋げる、居宅のケアマネジャーに繋げるといったところまで持っていけ

表1：保健師の現場実践で活かされている赤十字を基盤とした学士課程での学び

カテゴリ	サブカテゴリ	コード	コードID
看護基礎教育により 培われた能力・思考	多職種とのコミュニケーション力	基礎看護学で習得したアサーティブ技術は対象および他職種とのコミュニケーションに力を発揮している	1
		看護基礎教育によるコミュニケーション技術を叩き込まれた経験	2
	対象に寄り添い信頼関係を築く力	対象に知識を与えるのではなくまずは寄り添い信頼を築く手法が看護であるという実感	3
	講義・演習・実習により培われた看護過程展開技術が地域活動に活かされる	新任保健師として包括で保健師単独で地域を背負う際に看護師の知識が助けになる	4
		看護過程を展開できる力により多様な課題を抱える高齢者訪問時に求められる医療知識やアセスメント力、他職種他機関へ繋ぐ力が身につけている	5
		看護基礎教育での精神看護学実習や講義の学びが精神保健分野の訪問などの緊急対応で活かされる	6
		看護基礎教育による知識や看護過程はすべてに活かされている	7
	「生きるを支える人になる」ことの実感	本学の「生きるを支える人になる」を高齢者支援をする今実感する	8
		本学の「生きるを支える人になる」を高齢者の自立に向けた支援の基本として大切にしている	9
		本学の「生きるを支える人になる」は今後のポリシーとして継続して大切にしたいと考えている	10
PBL教育により 培われた能力	他者との協調の上での意見発信力	PBL経験によりカンファレンス時の連携がとりやすい	11
		PBL経験により他職種の意見を取り入れた上で自らの意見を発信できる	12
	他者へのプレゼンテーション能力	PBL経験により他人へうまく伝えられる	13
		PBL経験により多くの発表をこなせる	14
	事例検討から学びとる力	PBL経験により事例から円滑に学びとる	15
	企画を含めた資料作成力	PBL学習により発表資料作成力が培われたと感じている	16
PBL学習の資料作りで培われた住民の行動変容を促す飴と鞭を取り入れる企画構成力		17	
赤十字教育により 培われた能力・思考	敵味方なく寄り添う公平・中立の精神	赤十字教育により敵味方なく寄り添うことを刷り込まれる	18
		赤十字教育による公平・中立の精神は公務員としての専門的姿勢に生かされている	19
	災害救護・組織に関する基本的知識が基盤としてあることの強み	赤十字教育により災害に関する基礎知識や組織の知識を早期に習得できる	20
		災害救護訓練を含む赤十字教育により救護を要求される産業保健で生かすことができる	21
		赤十字教育により産業保健師として災害派遣される職員への健康教育ができる	22
		災害救護訓練経験により保健所の健康危機管理の現場における医療者の対応を思考する場面で強みとなっている	23
		災害救護訓練経験により災害時に必要とされる指示や物品、トリアージの知識があることを強みに思っている	24
	気づき考え行動する姿勢に基づいた円滑なコミュニケーション	赤十字教育の「気づき考え行動する」は円滑な仕事のため同僚とのコミュニケーションでも大切にしている	25

る力を日赤で学ばせていただいて、とてもありがたかった” (4, 5, 7)

“一人の高齢者に対してどのように生きるかを自立に向けて支えていくのか、できないことでなくてできることをどう支えていくのかということはやっぱり基本にしていきたい (中略) どう生きるかを支えることを包括でヘルス部門に異動したとしてもポリシーとして持っていたい” (9, 10)

【PBL 教育により培われた能力】として<他者との協調の上での意見発信力>、<他者へのプレゼンテーション力>、<事例検討から学び取る力>、<企画を含めた資料作成力>が獲得されていた。PBL 教育とは、研究参加者全員が履修したカリキュラムにおいて看護学部1年次のフィジカルアセスメント、同2年次の各臨床看護学による看護過程展開演習について、教育手法として取り入れていた問題基盤型学習 PBL (Problem Based Learning)のことを指す。演習冒頭に課題となる事例を提示したのち、学生個々で関連学習を進めた結果を資料にまとめ、グループ内で発表を繰り返しながら学びを深めていく手法である。

“PBL でグループワークをしていたので、保健師の中でカンファレンスをする時に連携が取りやすい、自分の意見を言うだけでなく、他の職種の方の意見を取り入れて意見を発することができている” (11, 12)

“PBL は結構役に立っている、看護師をしてから保健師になりましたけれど、誰かに伝えるということが学生時代に身につけていないと、社会に出てすぐにはできない” (12)

“職場でも事例検討をして学びを深めるということをするんですけども、PBLでも1つの事例を学んだため、職場でも抵抗なくすんなりと学べた” (15)

“教室を自分なりに企画できるようになったのは、日赤でカリキュラムの中にPBL とか資料を作るという構成力などを学んだおかげなのかな” (16, 17)

【赤十字教育により培われた能力・思考】としては、<敵味方なく寄り添う公平・中立の精神>が生まれ、<災害救護・組織に関する基本的知識が基盤としてあることの強み>を持ち、<気づき考え行動する姿勢に基づいた円滑なコミュニケーション>を発揮できていた。

“赤十字の勉強をした時に、敵味方関係なく、誰にでも寄り添ってというところをすごくたくさん学んだ (中略) 過去にそんなことしたのっていう人もいますが、今はその人がこれからも生活していくためにという部分を客観的に思い出して接して対応できるようになったのは、赤十字の考え方が大きい” (18)

“救護ということと呼ばれることもあるので、赤十字って災害訓練を大規模にやっているの、そういう経験も (中略) すごく役に立って今の仕事に活かされている (中略) 自分の経験や知識として職員の方に伝えることができる” (21, 22)

“気づきとか配慮がないと仕事ができないし、相手にもうまく伝わらなかったり、仕事もうまくいかなかったりするので、職場の人たちともコミュニケーションを取る時にも、「気づき、考え、行動する」ということ (中略) 忘れられないこととしてあります” (25)

2) 保健師基礎教育の成果と今後の教育への展望 (表2)

【保健師基礎教育により培われた能力・思考】としては、<保健師基礎教育により培われた住民の中に自ら入っていく姿勢>、<他校より充実した地区診断演習による地域特性理解力>、<集団に対して臨機応変に対応できるプレゼンテーション力>、<データや質的情報による個や集団への多角的なアセスメント力>、<相談を受け取りやすい環境づくりの手法>、<保健師のキャリア選択の幅の広さ>が得られていた。

“自分たちから求められる保健師ではなく、私は入っていく保健師になりたいなって思っています。学んだことではないですけど、業務の中でですね。基礎教育の力が大きいのかなって” (26)

“ (地区診断演習は) 他の大学に比べてとても時間を使っている (中略) 住民性とか県民性とか、ひたすら調べて先生に添削してもらって (中略) それはやっぱり、一番保健師として地区の理解というところで生きているのかな” (28, 29)

“時間をかけて勉強したことが実際に現場に出て時間がない中で対象を理解するのに (中略) 対象者に合わせた教育を同じ題材でも変えることは、大学のときに保健師実習で学んだことが活かしている” (32)

“保健所も今の部署も感染症ですけども (中略) データを集めて検討して対策してというところ

ろや、クラスターもそうですけれども、より広がらなくするためにどうしたらいいかというところについて非常に役に立っている” (33)

“いつでも相談に来れるように扉をあけていて、相談しやすい環境をつくっている、いろんな人に声をかけて回っているっていうのは保健師さんならではないのかな” (37)

“（産業保健や学校保健で感じたことは）私は産業保健とか勉強して、こういうところに保健師

さんっているんだな（中略）そういう風に将来の保健師として市町村保健師だけじゃない別の保健師として働くことができるということを見つめることができた” (38)

また、卒後保健師として現場で活躍する中で、保健師基礎教育に対して盛り込んでほしいと感じている【保健師基礎教育への要望】では、＜具体的な保健師像をより知る機

表2：保健師基礎教育の成果と今後の教育への展望

カテゴリ	サブカテゴリ	コード	コードID
保健師基礎教育により培われた能力・思考	保健師基礎教育により培われた住民の中に自ら入っていく姿勢	日赤の基礎教育で培われた住民の中に自ら入り込んでいく保健師になる気概	26
	他校より充実した地区診断演習による地域特性理解力	他大学よりも地区診断を学ぶ時間が長いことが強みに感じる	27
		地区診断に多くの学習を費やしたことは保健師として地区の理解に生きている	28
		地区診断学習は他大学より学んでいる感覚がある	29
	集団に対して臨機応変に対応できるプレゼンテーション力	実習経験により他者へ伝える技が身につく	30
		実習経験により他者へ伝わる媒体を選択できる	31
		実習経験により対象に合わせ臨機応変に教育できる	32
	データや質的情報による個や集団への多角的なアセスメント力	実習経験により対象をデータで見えて方策を検討できる	33
		実習経験により多角的なアセスメントができる	34
		実習経験により多角的なアセスメント経験が生きる	35
		産業保健実習の経験による就労者の勤務形態の特徴にも疾病リスクが影響しているという学び	36
	相談を受け取りやすい環境づくりの手法	産業保健実習の経験で保健師ならではの技術として相談しやすい環境づくりの手法の学び	37
	保健師のキャリア選択の幅の広さ	産業保健実習の経験で実際の役割機能よりもキャリアの選択肢が増えた感覚	38
保健師基礎教育への要望	具体的な保健師像をより知る機会提供の要望	具体的な保健師像を描くためにより必要なのは現場の保健師の授業で知識と実践を結びつける	39
		大学では看護師および保健師の立ち位置のみの視点を学んできている	40
		学生と近い年代の保健師が教授する関係の良さを感じる	41
		学生時は保健師は行政というイメージが強く具体的な保健師像がつかめていなかったと感じる	42
		具体的な保健師像を多く知る機会を学生時に欲しかったと感じる	43
	保健師の実践と法令理解の繋がりに関する教育のさらなる充実の要望	学生時の認識不足なのは法令に関する学習の重要性であると痛切に感じる	44
		学生時に法令と事業のつながりを実践的な話を通じて知っておきたいと感じる	45
		卒後継続して保健師として自己研鑽する手法の教育の要望	卒後も継続して学びながら最新の知見を取り入れる手法を知りたいと感じる

会提供の要望>、<保健師の実践と法令理解のつながりに関する教育のさらなる充実の要望>、<卒後継続して保健師として自己研鑽する手法の教育の要望>が挙げられた。

“大学の時は市役所・保健所のイメージが強かったので、もっと保健師ってどういう仕事なんだって広く知ってもらおうことが、私たち保健師としてやっていく上でも大事（中略）もっといろんな仕事しているって知ってもらおう機会があったらよかった”（42, 43）

“保健師って法律を基に仕事するので、自分も実際に法律をちゃんと勉強しておけばよかったなという後悔がたくさんあるんですけども、実際の場面と結び付けて、その法律を学ぶことができたら頭に入りやすかったかなと思います”（44, 45）

“どんどん時代が変わるにつれ、保健師の活動も変わっていくじゃないですか。だから、その時に学んでおけばよかったじゃなくて働きながらも取り入れていかなければならないなって（中略）その方法について働きながらどうやって学んでいけばいいか知れば嬉しい”（46）

3) 保健師という専門職としてのやりがい・姿勢（表3）

【卒後に身に付いた能力・専門的思考】として、能力では<時系列的な視点により対象をとらえる力>、<地域特性を個や集団への支援に活かす力>、<個に対する支援の蓄積を集団への支援に活かす力>、<保健師としての立ち位置を意識しつつ多職種との連携力は働きながら向上させる>が挙げられ、専門的思考として<前例踏襲に留まらず創意工夫したことが住民へ還元されるやりがい>や<自らが対象の健康管理の責任を持つやりがい>が育まれ<ジェネラリストとして要求される能力の実感>をしていた。

“自分が初めて赤ちゃん訪問で行ったお子さんが（中略）3歳児健診に来た時（中略）経過的に見える保健師っていい”（47）

“健康講話するとなると、その地域特性も踏まえて（中略）特性とか考えながら、その地区にあった内容にしていきたいなって思います”（54）

“各会場でも旧市町村単位で住民の特徴は全く違って、ちょっと認知症っぽい方がいるときに認知症の話をしすぎると傷ついたりということもあるため、様子を見ながら話しすぎなかったり、詳しく話したりと見極めて”（52）

“大学の中では狭い視野で看護師と保健師の勉強しかしてこなかった（中略）〇〇に配属されてから違う職種の方の見方とか（中略）社会に出て身につけたと感じています（中略）連携って、簡単な言葉ですけど、連携する能力については働きながら身につけた”（57）

“これを機に作り替えようって作ったものがあつたんですけど（中略）これ見やすくてすごいいいですねって言われて（中略）住民の方にも分かりやすいものが渡るようになってよかった”（67, 68）

“狭い組織の中で繋がりを持って対象の方の健康を自分で管理していくことを責任を持ちながら働いているのは保健師としてやりがいがあること”（70）

“健康管理や怪我だけではなくメンタルの方もありますし、職場に医療職は保健師しかいないので、医療的な面で頼られることがすごく多いので知識を広く持っていなければならない”（71, 72）

【看護師経験を経たことで培われた能力・思考】として、<病棟での実践に基づいた医療知識、アセスメント力、看護技術を駆使し医療へつなぐ力>が挙げられ、保健師に転職したことで<退院後の生活を知る喜び><地域で地道に信頼を築いていく喜び>を得ていた。研究参加者の中に含まれる、卒後病院看護師勤務経験を経て保健師に転職した卒業生の語りから抽出された内容である。

“病院の勤務をしてきたからこそ、そういう訴えをしているならば、ここの課に繋いだらいいとか、最初にここに相談してからこっちに行った方がいいとか、（中略）繋げることができた時、よかったなと思った”（74）

“退院した人ってこういう風に生活しているんだなって見えて、それが分かるのもすごく勉強になっていい”（78）

“病院から退院したお母さんたちのつながり見えてとても楽しいし、病院にいたからこそその視点を大切にしたい（中略）赤ちゃん訪問でお母さんと1～2時間くらい話すんですけど、その中で信頼関係を築けていたのかという時に数ヶ月後に相談したいという電話をいただいたり、来所して下さる方に（中略）指名で声かけてくれるお母さんもいて、そういう時はやってよかったなど”（77, 79）

表3：保健師という専門職としてのやりがい・姿勢

カテゴリ	サブカテゴリ	コード	コード ID	
卒後に身に付いた能力・専門的思考	時系列的な視点により対象をとらえる力	保健師5年目になり関わった児の発育経過を見れる喜びを感じる	47	
		職域における対象との直接的なコミュニケーションの大切さを実感する	48	
		保健指導の積み重ねによりコミュニケーション力が獲得される	49	
		職域における保健指導の成果から対象との繋がりが深まる	50	
	地域特性を個や集団への支援に活かす力	保健師2年目で自分の所属部署の特性を生かした健康教室の企画を単独で行う	51	
		保健師2年目で地域特性に合わせた健康教育を見極めて実践する	52	
		長期的な地域との関わりで地域特性に合わせた健康教育の見極めができる	53	
		職域における健康教育に地域特性を生かす重要性を感じている	54	
	個に対する支援の蓄積を集団への支援に活かす力	住民個人との関わりでの積み重ねから集団特性に合った健康教育の教育目標を見極める	55	
		健康教育を受けた住民からの肯定的なフィードバックにより喜びを感じる	56	
	保健師としての立ち位置を意識しつつ多職種との連携力は働きながら向上させる	連携する能力は働きながら身に付けた感覚がある	57	
		包括配属後に福祉職を始めとした他職種の視点が身についたと感じている	58	
		対象をより深く情報収集するツールの提案を採用された喜びを感じる	59	
		自らのアイデアを認め採用してもらえることで意見を発信できる	60	
		保健師は地域の質的情報を得る強みを生かして量的情報ではわからない地域を他職種に伝えたいと感じる	61	
		保健師でしか知り得ない健康な高齢者の情報を地域ケア会議で共有する視点が持てる	62	
		専門職連携の場で県保健師としての立場で新型コロナウイルス対応ができたことにやりがいを感じる	63	
		自らのアイデアを基盤に多職種の意見を容れて洗練させる	64	
	前例踏襲に留まらず創意工夫したことが住民へ還元されるやりがい	対象を新たな視点でアセスメントする提案を採用されたことへやりがいを感じる	65	
		対象を新たな視点でアセスメントする提案により市民への還元ができることへやりがいを感じる	66	
		前例踏襲にとどまらず工程表の改良につとめる	67	
		改良に努めた成果が住民に還元されることへ喜びを感じる	68	
		上司に創意工夫した資料の見やすさを認められたことを強みに感じている	69	
	自らが対象の健康管理の責任を持つやりがい	職域における労働者の健康管理の責任はやりがいにつながる	70	
	ジェネラリストとしての要求される能力の実感	産業保健師は保健から医療に至るまで広い知識を要求される	71	
		産業保健師の対象範囲の広さを感じる	72	
	看護師経験を経たことで培われた能力・思考	病棟での実践に基づいた医療知識、アセスメント力、看護技術を駆使し医療へつなぐ力	看護師経験で培った薬の知識を駆使したアセスメント力を強みとしている	73
			病院勤務経験があることにより医療へ巧みにつなげられる	74
			病院勤務経験があることにより身体的アセスメントが巧みに行える	75
病院勤務経験があることにより地域でも看護技術を巧みに駆使できる			76	
退院後の生活を知る喜び		病院勤務経験があることにより退院後のプロセスを知る喜びを感じる	77	
		病院勤務経験があることにより退院後の生活を知る喜びを感じる	78	
地域で地道に信頼を築いていく喜び		病院勤務経験があることにより地道な信頼関係を築ける喜びを感じる	79	

V. 考察

1. 赤十字を基盤とした学士課程での学び

本研究の結果として、【看護基礎教育により培われた能力・思考】では、〈対象に寄り添い信頼関係を築く力〉、〈多職種とのコミュニケーション力〉、【赤十字教育により培われた能力・思考】では、〈敵味方なく寄り添う公平・中立の精神〉が育まれていた。保健師は多様な就業場所で活動しているが、中でも行政において公務員としての一面を持ちながら専門職としての役割機能を果たすことが多く、都道府県、保健所、市町村で就業する保健師は6割を超えている（厚生労働省医政局看護課，2019b）。行政保健師は、虐待疑いのある住民や多様な家庭環境など複雑な背景を持つ住民やその住民を取り巻く家族や関係者に接しながら、生活に寄り添う関わり、そして自治体として俯瞰した視点で住民に必要なニーズ、施策は何かを見極めることが求められる。また、赤十字の基本原則は七つあり、そのうちの公平、中立について Pictet, J (1979/2010) は、「公平とは、妥当なものとして認められた確立された規則を同情又は関心から差別なく適用するときに表明するものである」と述べ、「紛争においてどちらの側にも味方しない人を中立という」としている。赤十字に関連する授業科目では、この赤十字の基本原則について教授されており、卒業生にとってはこの基本原則が保健師としての活動の中で根づいていると考えられた。具体的には、「公平」はどのような背景がある住民に対しても偏見なく接することであり、また様々な要望、要求をする住民に対し「中立」な態度で接することなど公務員としての職責を果たす上で非常に重要な基盤となっていることが示唆された。

また、学士課程における看護基礎教育の中でアクティブラーニング手法の一つであるPBL (Problem Based Learning) を用いた教育を受けた卒業生は、事例を提示された後、自ら調べ学習をしたうえで資料を作成しグループ学生の前で発表する経験を繰り返し重ねていた。このことにより、〈他者との協調の上での意見発信力〉、〈他者へのプレゼンテーション力〉、〈事例検討から学び取る力〉、〈企画を含めた資料作成力〉が培われていた。辻, 小島, 高嶋, 合田, 林 (2015) は、事例検討は保健師としての固有の援助技術を明確にし、新任保健師の力量形成に重要なことであると指摘している。また、塩澤, 野尻, 会沢, 板垣,

安藤 (2021) は、管理期保健師が期待する新人保健師の実践能力として「仕事に向かう姿勢として主体的に学ぶ姿勢がある」ことを挙げている。学生が主体的に学ぶ手法であるアクティブラーニングを取り入れ、学士課程のうちから事例検討を通じた学習に慣れておくことは、保健師として特に個別事例への支援を行う上での力量形成や職業人としての専門的姿勢の育成にとり有益であると考えられる。

2. 今後の保健師基礎教育のあり方

【保健師基礎教育により培われた能力・思考】としては、〈保健師基礎教育により培われた住民の中に自ら入っていく姿勢〉、〈他校より充実した地区診断演習による地域特性理解力〉、〈集団に対して臨機応変に対応できるプレゼンテーション力〉、〈データや質的情報による個や集団への多角的なアセスメント力〉が挙げられていた。本研究の研究参加者はいずれも5年以下の経験年数であり、新任保健師と比べてよい実践経験年数であった。川端, 千葉 (2020) は5年未満の新任保健師が抱える困難として「効果的な支援方法がわからない」と指摘している。新任保健師は、経験の少なさから、直接、住民に対応することに戸惑い、個別性のある支援をすることに困難を感じているとしているが、本学の卒業生は〈保健師基礎教育により培われた住民の中に自ら入っていく姿勢〉を挙げており、対象に向き合う専門的姿勢は基礎教育で培うことができていると考える。前述した看護師基礎教育による〈対象に寄り添い信頼関係を築く力〉、赤十字の教育による〈敵味方なく寄り添う公平・中立の精神〉と併せて、様々な対象に専門職として対峙できる姿勢を養う教育を継続していく必要がある。

また、新任保健師の抱える困難として「担当地域が把握できない」という課題が指摘され、新任保健師は自分と価値観の異なる地域住民の意見やニーズに困惑することも多く、さらにどんな情報をどこから得るのかということも手探りの状態であるとされている (川端, 千葉, 2020)。しかし、本学の卒業生は保健師基礎教育で培われた能力として〈他校より充実した地区診断演習による地域特性理解力〉や〈データや質的情報による個や集団への多角的なアセスメント力〉を挙げており、地区診断に関する教育内容は有効であったことが示唆された。一般社団法人全国保健師教育機関協

議会（2021）によると、2020年の保健師助産師看護師指定規則改正により強化が必要だと思われる保健師基礎教育の内容の一つとして、「疫学データおよび保健統計等を用いた地域のアセスメントとそれらの予防や防止に向けた支援を展開する能力を育成する授業・演習」が挙げられている。今後も本学の卒業生が地域のアセスメントをする力を強みとして実践に活かせるよう、引き続き時代に即した授業・演習計画を継続していく必要があると考える。

一方で、【保健師基礎教育への要望】では、〈具体的な保健師像をより知る機会提供の要望〉、〈卒後継続して保健師として自己研鑽する手法の教育の要望〉が挙がっていた。吹野、松浦、金田（2022）は、一般的に看護師より出会える機会の少ない保健師のイメージは漠然としており、学生が公衆衛生看護学の講義や実習等で実際の保健師と出会う中、その語りを聞き保健師の奥深さを感じたことで職業選択が強化されたとしている。保健師基礎教育の講義・演習の中で様々な現場の保健師の語りを聞く、インタビューができる機会を設けることは、具体的な保健師像がイメージできることにつながると考えられ、今後の講義・演習に取り入れていく必要がある。

卒後継続して保健師として自己研鑽する手法について、藤井、杉山、北村（2011）は、学士課程卒業後1年目保健師が基礎教育では不足な知識技術を補うための課題について職場外で解決する方法として、自己研鑽として勉強会などに参加することを挙げている。また、矢野（2014）は専門知識や技術、情報獲得のための継続的な自己学習の意欲が保健師としての専門性を高めると指摘している。つまり、職場外の現任教育として新任保健師に対する自己研鑽の場を大学が提供することは、不足な知識、技術を補えるだけでなく保健師としての専門性を高める態度にもつながると考えられ、今後検討の余地があると考えられる。

【卒後に身に付いた能力・専門的思考】として、〈保健師としての立ち位置を意識しつつ多職種との連携力は働きながら向上させる〉が挙がっていた。池田、平澤、高林（2023）は、保健師経験年数と「連携の仕方が分からない」「連携を円滑に行えるか自信が無い」には負の相関があると指摘しており、現状として新任保健師の多職種と連携する力は十分ではないことが推察される。保健師基礎教育調査（全国保健師教育機関協議会、

2018）によって明らかとなった保健師基礎教育の課題の一つとして岸（2020）は、災害、背景要因が複雑化した個人や家族の健康危機を始めたとした多様な健康危機管理に対応できる実践能力や地域への支援として政策形成能力の獲得を目指した「ケアシステムの構築にかかわる実践能力」を伸ばすことを挙げている。地域診断を実施し、抽出された健康課題を解決するために、多職種との連携や住民との協働を体験させることも必要であるとしている（岸、2020）。今後社会のニーズの即応できる保健師を養成するためには、保健師基礎教育の段階から多職種との連携、住民との協働に対応できる力を伸ばす教育について検討していく必要がある。

本研究の限界と課題として、研究参加者が6名と少なく実践経験年数1～5年と幅があった。また、本研究においての研究対象は日本赤十字秋田看護大学の卒業生として研究を実施したが、赤十字を基盤とした学士課程における保健師基礎教育を行っている大学は、日本赤十字秋田看護大学以外にも複数設置されている。赤十字を基盤とした学士課程における保健師基礎教育の成果を検討するには十分とは言い難く研究の限界である。今後も研究参加者を募り、勤務先の現任教育による影響を考慮したうえで、保健師基礎教育のあり方の検討が引き続き必要だと考える。

VI. 結論

赤十字を基盤とした学士課程における保健師基礎教育の成果として、【看護基礎教育により培われた能力・思考】では、〈対象に寄り添い信頼関係を築く力〉や〈多職種とのコミュニケーション力〉や【赤十字教育により培われた能力・思考】として、〈敵味方なく寄り添う公平・中立の精神〉が育まれ、特に行政保健師においては公務員として重要な基盤ともなっていた。【保健師基礎教育により培われた能力・思考】としては、〈保健師基礎教育により培われた住民の中に自ら入っていく姿勢〉、〈他校より充実した地区診断演習による地域特性理解力〉、〈集団に対して臨機応変に対応できるプレゼンテーション力〉、〈データや質的情報による個や集団への多角的なアセスメント力〉が挙がっていた。一方で、〈保健師としての立ち位置を意識しつつ多職種との連携力は働きながら向上させる〉能力は卒後培われたとしていることから、今後社会のニーズに即応できる保健

師を養成するために、保健師基礎教育において多職種との連携、住民との協働に対応できる力を伸ばす必要がある。

謝辞

本研究におけるフォーカス・グループ・インタビューに快く御協力いただいた卒業生の皆様に深くお礼を申し上げます。

利益相反

なし

本研究は令和3年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金」の助成を受け実施した。

引用文献

- 藤井智子, 杉山さちよ, 北村久美子 (2011). 学士課程卒業後1年目保健師の語らいからみえた活動の実態. 旭川医科大学研究フォーラム, 12, 34-41.
- 吹野信浩, 松浦治代, 金田由紀子 (2022). 看護学生が保健師の職業選択を強化した要因. 日本公衆衛生看護学会誌, 11 (3), 163-171.
- 福本恵 (2008). 保健師教育の変遷と今日的課題. 京都府立医科大学雑誌, 117 (12), 947-955.
- 池田由貴, 平澤則子, 高林知佳子 (2023). A県内市町村保健師の他職種・他機関との連携の困難に関する研究. 北関東医学, 73 (2), 119-125.
- 一般社団法人全国保健師教育機関協議会 (2021). 保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正により重視する公衆衛生看護学教育について. p11. <https://www.zenhokyo.jp/work/doc/202105-iinkai-kyouikukatei-houkoku.pdf>. p11. 2023年9月9日閲覧.
- 川端泰子, 千田みゆき (2020). 行政で働く新任保健師の困難に関する文献検討. 埼玉医科大学看護学科紀要, 13 (1), 41-47.
- 岸恵美子 (2020). 保健師基礎教育の検討状況とこれからの本協議会の活動について. 保健師教育, 4 (1), 2-9.
- 厚生労働省 (2023). 地域保健対策の推進に関する基本的な指針. https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=78303300&dataType=0&pageNo=1, 2023年9月10日閲覧.

厚生労働省医政局看護課 (2019a). 看護基礎教育検討会報告書. <https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557405.pdf>, 2023年9月10日閲覧.

厚生労働省医政局看護課 (2019b). 日本看護協会, 看護統計資料室, 保健師の就業場所. <https://www.nurse.or.jp/nursing/home/statistics/pdf/toukei02.pdf>, 2023年9月9日閲覧.

Pictet, J. (1979/2010) 井上忠男 (訳). 解説赤十字の基本原則, 人道機関の理念と行動規範 第2版, 57-61, 東信堂.

塩澤百合子, 野尻由佳, 会沢紀子, 板垣昭代, 安藤はるか (2021). 新人保健師に期待する実践能力. 日本地域看護学会誌, 24 (3), 34-42.

辻よしみ, 小島千明, 高嶋伸子, 合田加代子, 林佳子 (2015). 卒業生を対象とした保健師交流会の活動経過. 香川県立保健医療大学雑誌, (6), 23-28.

鶴若麻理, 渡部尚子, 川原由佳里, 吉川龍子, 新沼久美, 内田卿子, 岩間節子, 直井久枝, 大橋明子, 松本直子, 廣瀬清人 (2015). 戦前・戦中期にみる聖路加と日本赤十字社の公衆衛生看護とその教育の特徴. 聖路加国際大学紀要, 2, 1-9.

矢野知恵 (2014). 行政保健師の地域活動態度の特徴. 日本公衆衛生看護学会誌, 2 (1), 12-19.